

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

| | |
|--------|--|
| 学校名 | 履正社高等学校 |
| 取り組む課題 | キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現） |
| 評価指標 | <ul style="list-style-type: none">・国公立大学進学者数の増加・外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上・全国的な学力コンクールでの顕彰・学校評価アンケートにおける生徒の思考力、判断力、表現力の向上 |
| 計画名 | 「フューチャークラスルーム：FCR」（プレゼンテーションルーム）で「21世紀型教育」を推進～「学びを楽しめる生徒」の育成～ |

2. 事業目標及び本年度の取組み

| | |
|--------------|--|
| 学校経営計画の中期的目標 | 令和4年度事業計画 2. 教学等計画 2-1 中学校・高等学校 ②学校運営の課題 <p>新学習指導要領の実施と大学入試改革が進行する現在、「受け身の教育」から、生徒が「主体的に学ぶ教育」への転換を促すものであり、ICTの活用やアクティブ・ラーニングの展開を通じて、物事を「探究」する能力を育成することをめざしている。本校においても、教育課程や行事計画等、教育活動や教育内容を、常に見直し、新しい時代に相応する学校運営体制の確立を図り、21世紀型教育を推進する。</p> |
| 事業目標 | ア. 「学びを楽しめる生徒」の育成 1、2年生の「総合的な探究の時間」では、現実社会を題材に、「正解のない問い」を通して、仲間と対話し、意見をまとめて発表することで、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力を育む教育プログラム「QUEST EDUCATION」を実施する。また放課後に、英語によるコミュニケーション技能を身につけるために、ネイティブ教員がオールイングリッシュで行う「グローバルゼミ」を実施する。その際、可動式教育用チェア「ノードチェア」と、前方と後方に大型ホワイトボードを配置した「フューチャークラスルーム：FCR」を活用し、現在の普通教室より、効率よくグループ討議、プレゼンテーションを行うことで、「受け身」ではなく「主体的」に学びに向かう力やコミュニケーション力を身につけた「学びを楽しめる生徒」の育成をめざす。 |
| 整備した設備・物品 | <ul style="list-style-type: none">・選択教室を「フューチャークラスルーム：FCR」（プレゼンテーションルーム）に改築・可動式教育用チェア「ノードチェア」（18台）、大型ホワイトボード一式 |
| 取組みの主担・実施者 | <ul style="list-style-type: none">・主担：教務部入試広報室（広報・探究推進リーダー）・取組みの実施者：1、2年生「総合的な探究の時間」担当者、「グローバルゼミ」担当者 |
| 本年度の取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・「総合探究」、「グローバルゼミ」担当者による授業・講習の実施（通年）・「総合探究」担当者による指導内容の打ち合わせ（毎週土曜日）・「RISEI CUP（総合探究発表会）」の実施（11月）、「QUEST CUP」全国大会へのエントリー（12月）・「学校評価アンケート」の実施・集計・分析（1～2月）・全国大会出場決定・出場（2月）、次年度「総合探究」担当者による研修（3月）・次年度に向けた指導内容の検討・決定（3月） |

| | |
|------------------|--|
| 成果の検証方法 と評価指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜による国公立大学合格者数が 10 名以上。 ・「スタディーサポート」の GTZ B1 レベル以上が生徒全体の 30%以上。 ・探究活動の発表会である「QUEST CUP」全国大会に出場し、優秀賞以上を受賞。 ・「学校評価アンケート（生徒対象）」における「授業や課外活動を通して、思考力、判断力、表現力等が向上していると感じる」の肯定的評価 80%以上 |
| 自己評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜による国公立大学合格者数が 10 名以上。 →大阪公立大 2 名、和歌山大、鳥取大、徳島大、九州大に各 1 名合格、計 6 名 …… (△) ・「スタディーサポート」の GTZ B1 レベル以上が生徒全体の 25%以上。 →25.3%…………… (○) ・探究活動の発表会である「QUEST CUP」全国大会に出場し、優秀賞以上を受賞。 →1年 1 チーム、2 年 2 チームが「QUEST CUP」全国大会に出場。2 年チームが企業賞、優秀賞をそれぞれ受賞し、企業賞受賞チームは、8 チームによるファイナルステージに進出。1 年チームが特別賞を受賞。…………… (◎) ・「学校評価アンケート（生徒対象）」における「授業や課外活動を通して、思考力、判断力、表現力等が向上していると感じる」の肯定的評価 80%以上。 →肯定的評価は 82%…………… (○) |
| 事業まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・本事業で整備した「フューチャークラスルーム：FCR」を活用した「総合探究」での取組みは、順調に進み、初年度から 3 年連続で「QUEST CUP」全国大会に出場し、2 年めにはグランプリ（最優秀賞）、3 年めには出場した全チームが、企業賞・優秀賞・特別賞を受賞するなど、大きな成果を上げた。 ・「フューチャークラスルーム：FCR」は、本校が独自に取り組んでいる「言語技術教育」でも活用し、日本語を論理的に扱うスキルの向上をめざしている。 ・本事業によって、「受け身の教育」から、生徒が「主体的に学ぶ教育」への転換が、学校全体の意識改革につながり、多くの授業で、ICT 活用や思考力、判断力、表現力向上への取組みが進んだ。今後も、「フューチャークラスルーム：FCR」を積極的に活用し、総合型選抜や海外大学入試での合格実績向上につなげたい。 |